

**HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY****October 16-31, 2005**

平成 15 年度国民健康・栄養調査の結果から、「健康日本21」が推奨している野菜摂取量、1 日当り 350g に対して全ての年代において不足している事がわかる。特に 20 代～40 代は 1 日当り 300g にも満たない。一方、農林水産省では野菜には「ビタミン」「ミネラル」「食物繊維」「機能性成分」が豊富に含まれており、野菜の摂取を推奨している。全国清涼飲料工業会の統計資料によると、トマトジュースは 1998 年以降毎年対前年割れ(金額ベース)が続いているが、その他野菜ジュースも 2001 年以降成長が鈍化している。しかし消費者の野菜不足に対する自覚は強く、機会があれば積極的に摂取したいというニーズは強い。そこに『1 日分』を前面に押し出した商品が現れ、好評である。しかし、『1 日分の野菜 350g』から作った野菜ジュースを 1 日 1 本飲めば、必ずしも必要な栄養素が十分に摂取できるわけではないところに落とし穴がある。また、現在市場に出ている「野菜」を訴求したサプリメントは内容的には不十分である。消費者の懸念・関心が高い「野菜」を打ち出しつつ、ビタミン、ミネラル、食物繊維、機能性成分(抗酸化物質など)を十分補給できる商品は未だ市場に現れておらず、そこにビジネスチャンスがあるのではないだろうか。

**NEW PRODUCTS****DHC、英GSK社のカシス飲料「ライビーナ」の独占販売を開始**

DHCは、ブラックカラントを原料にした果汁飲料「ライビーナ」の日本における独占販売権を英グラクソ・スミスクライン社から取得し、10月13日より通信販売で販売を開始した。ブラックカラントには、オレンジの3倍以上のビタミン C や抗酸化物質のアントシアニンが含まれている。「ライビーナ」は、天然のビタミン C を含む健康果実飲料としてイギリスで1940年代に発売され、現在では世界22カ国で販売されている。(DHC ホームページ)

**伊藤園、野菜が20種類に増えた100%飲料「1日分の野菜」を発売**

株式会社伊藤園は、野菜100%飲料「1日分の野菜」で使用する野菜の種類を16種類(紙パック製品は17種類)から20種類に増やし、10月24日より順次リニューアルする。昨年5月に発売した「1日分の野菜」は、厚生労働省が推奨する1日の野菜摂取量350g分の野菜を使用するという新しい製品コンセプトで、成長が鈍化していた野菜飲料市場に刺激を与えた。今回のリニューアルでは、野菜飲料ユーザーの多くが、野菜飲料に「多種の野菜を一度に摂りたい」という要望を持っていることが同社の調査で明らかになったため、使用する野菜を16種類



(紙パック製品は17種類)から20種類に増やした。(2005年10月20日 伊藤園 プレスリリース)

### 東洋発酵、抗肥満の新素材の販売開始

東洋発酵は、理化学研究所のベンチャー企業、テクノフローラ社が開発した抗肥満素材「ユニフェス」の販売を今年12月より開始する。理化学研究所の鈴木邦夫博士が、植物ステロールの代謝中間体である植物ステノンに、血中脂質低下、内臓脂肪低減、抗肥満作用があることを発見した。この成分は、ヒシの実やナツメヤシに含まれている。(2005年10月27日 訪販ニュース)

### カゴメ、体の中からキレイをサポートする「ビフィズス&コラーゲンのむヨーグルト」を発売

カゴメ株式会社は、「ビフィズス&コラーゲンのむヨーグルト」200mLを2005年11月19日から発売する。同商品には、女性に人気の潤い成分として知られる「コラーゲン」を1500mg配合、さらに2種類の生きたまま腸まで届く乳酸菌、ビフィズス菌とL・カゼイ菌を使用し体の中からのキレイをサポートする。(2005年10月26日 カゴメ プレスリリース)



## TECHNOLOGY UPDATES

### 花王、高濃度茶カテキン飲料の長期摂取で、血糖値を下げることを確認

花王株式会社は、糖尿病の患者に、高濃度茶カテキン飲料を12週間継続摂取してもらったところ、血糖値やヘモグロビンA1cが低下したことを明らかにした。糖尿病の食事療法の素材の一つとして、高濃度茶カテキン飲料の有効性が期待される。体脂肪を低減する効果に加えて、高濃度茶カテキン飲料の新たな効果として見出された。本研究成果は、第26回日本肥満学会(2005年10月13日~14日、北海道・札幌市)において、甲子園大学栄養学部助教授・山本國夫先生らとの共同研究として発表された。(2005年10月18日 花王 プレスリリース)

### 森永乳業、「ビフィズス菌BB536」の花粉症不快症状の改善効果など研究成果を発表

森永乳業株式会社は、第55回日本アレルギー学会学術大会(2005年10月20日-22日)において、ビフィズス菌BB536(ビフィドバクテリウム・ロンガムBB536)の花粉飛散の多いシーズンにおける花粉症不快症状の改善効果について発表した。本研究は、2004年にビフィズス菌BB536含有のヨーグルトを使用して検証したBB536の花粉症症状軽減作用についてさらに研究を深めたもので、今回はヨーグルトではなくBB536の菌末を使い、BB536単独の抗アレルギー作用について検証した。その結果、2005年の花粉が大量に飛散している状況においても、ビフィズス菌BB536そのものが持つ整腸作用と免疫調節作用が、花粉症の症状の軽減に作用していることが示唆された。(2005年10月24日 森永乳業 プレスリリース)

## COMPANY NEWS

### サニーヘルス、「マイクロダイエット」の商品ライン拡大を発表

サニーヘルス株式会社では、売上約400億円の食事代替食品のトップブランドである「マイクロダイエット」シリーズに、多様な形態の新商品を追加し、2006年2月には50アイテムを増やすことを計画している。これにより、顧客の選択肢を広げ、新規顧客の獲得および既存顧客の囲い込みを狙う。新商品には、現在の粉末飲料をゼリー状にしたもの、たんぱく質の配合量を増やした男性用商品、更には冷凍食品、レトルト食品、リゾットタイプなどがある。冷凍食品およびレトルト食品は1食480kcal、リゾットタイプは1食280kcalに設定している。また、口寂しさを紛らわせる低カロリー食品として、クッキーやヌードルなど30品を投入する予定だ。2007年～2008年には、「マイクロダイエット」ブランドだけでも100アイテム、低カロリー食品は300アイテムを増やす予定。一方、現在の顧客に対しては、ガイドブック、DVD、パソコンや携帯電話を用いた顧客支援システムなどを立上げ、きめ細かなサポートを行う。(2005年10月15日 ヘルスライフビジネス)

### コミュニティプラザ、オーダーメイドサプリメントの供給を開始

コンサルティングなどを行なうコミュニティプラザは、オーダーメイドサプリメントの訪販・通販業界への商品供給を本格的に開始する。顧客の新規開拓や休眠顧客の掘り起こしへの活用が期待される。同社のシステムでは、コンピュータを利用して顧客にとって最適なサプリメントを130種類の中から組み合わせて販売する。コンピュータが質問する「タバコを吸いますか」などの設問に答えもらい、顧客それぞれの生活スタイルや健康状態に適したサプリメントを提案する。顧客単価は、月額2～5万円。(2005年10月20日 日本流通産業新聞)

### 日本アムウェイ、2005年上半期業績は大幅に回復

日本アムウェイは、10月6日、2005年度上半期(1月～6月)の決算を発表した。これによると、売上高は579億4000万円、営業利益は53億3900万円、経常利益は53億2400万円となった。決算期の変更により、前期との単純比較はできないが、前期上半期(2003年9月～2004年2月)と比較すると、売上高は9.8%増、営業利益は2.1倍、経常利益が2.2倍に拡大した。このうち、栄養補助食品の売上高は、14.8%増の208億8400万円、全体に占める割合は36.0%となり、パーソナルケア製品(187億3600万円)を上回ってトップとなった。同社の売上は1996年8月期の2121億9500万円をピークに減少し続け、2003年8月期にはピーク時の49%である1038億8700万円まで落ち込んだ。しかし、翌2004年8月期は1118億2500万円と前期比7.6%を達成、それまでの連続減収基調に歯止めをかけた。同社は、2003年度を「ニュートリライトの年」として栄養補助食品にターゲットを絞ったマーケティング戦略を展開し、売上高を増収に転換させる転機をつくった。2004年度および2005年度は、「Growing Beautiful Together」をテーマに、栄養補助食品と化粧品に焦点を当てた営業戦略を展開している。(2005年10月20日 訪販ニュース)

### **ヤクルト、オーストリアに「ヤクルト」販売会社を設立**

株式会社ヤクルト本社は、2005年11月(予定)にオーストリアヤクルト販売株式会社を設立し、2006年1月(予定)よりオーストリア市場にて「ヤクルト」の販売を開始する。ヤクルトグループでは、現在、海外25の国と地域で、主に「ヤクルト」の販売を行っており、ヨーロッパ地域においては、1994年にオランダ、1995年にベルギー、1996年にイギリスとドイツで、それぞれ現地法人を設立し「ヤクルト」の販売を開始した。近年、ドイツヤクルトの取引先であり、オーストリアでも店舗展開しているスーパーマーケットチェーンからオーストリア市場での「ヤクルト」の販売要請が強くなってきていた。そこで、オーストリアに、同社100%出資子会社であるヨーロッパヤクルトの100%出資現地法人を設立し、オランダから「ヤクルト」を輸入して販売する。(2005年10月27日 ヤクルト本社 プレスリリース)

### **ファンケル、2005年度上半期売上は8.3%増**

ファンケルの2005年4～9月の連結売上は、前年同期比8.3%増の457億7000万円となった。直営店舗を前年同期比で33店舗増の184店舗へ拡大したことや、主力の化粧品、健康食品とも継続的なヒット商材が出たことなどで増収となる。化粧品事業は、前年同期比10.4%増の197億500万円、健康食品事業は同11.5%増の165億2100万円の売上だった。健康食品では、「コエンザイムQ10」や「リポ酸」、「HTCコラーゲン」などが好調に推移した。一方、その他事業は、発芽玄米の不調が響き、売上は同0.5%減の95億4400万円となった。発芽玄米は、広告を抑制したことなどにより通販・卸ともに低迷が続き、同17.7%減の26億2400万円。青汁は、新タイプの投入が好調の一要因となり30.3%増の26億1600万円。いいもの王国は、カタログ再編や商品の絞込みで前年同期は不調だったが、ウォーキングシューズのヒットなどで増収に転じ、前年同期比5.9%増の26億2400万円となった。(2005年10月27日 通販新聞)

### **「リエータカフェ」会員数、半年間で6000名**

キリンウェルフーズの食事代替ダイエット食品「リエータ」のユーザーが、個人の食事記録や体験談を掲載する無料ブログサイト「リエータカフェ」では、4月の立上げ以降半年間で会員数が6000名に達した。「リエータカフェ」の参加者の口コミマーケティングが自然に行なわれ、「リエータ」の消費を増やし、評判を呼んで更に参加者が増えるという好循環が生まれている。(2005年10月28日 日経流通新聞)

### **味の素、血中アミノ酸で健康分析、テーラーメイド食品を開発**

味の素の健康基盤研究所は、血中アミノ酸濃度に着目したテーラーメイド食品の研究開発に取り組んでいる。体内の生理的な変動や遺伝子を解析したデータを基に食品を開発、生活習慣病の予防や病気の進行遅延に役立てる試みだ。血中アミノ酸濃度のパターンを解析し、調べたい疾病にかかっているかどうかを判別する。この「アミノインデックス」と名付けた計算式を使うと、「肝硬変」「肥満」「I型糖尿病」「II型糖尿病」など、特定の疾病にかかっている人、かかっていない人、症状が重度の人、軽度の人などを正確に把握できる。個人個人の健康状態に応じたテーラーメイド食品は健康でも病気でもない「未病」の人たちを対象にした将来の巨大マーケットだ。(2005年10月28日 日経流通新聞)